

第8回武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会意見と対応

構成員	意見	対応
上甫木	<p>中間とりまとめの流域対策に関する報告の中で、田んぼダムとか各戸の貯留施設の効果量について、数値には反映していないとのことであったが、それも何らかの形で数値化、推定でもいいですし、なにか数値化してどの程度の効果があるかというのを示していただくと、協力していただいている住民の方々の目標にもなるし、やったという成果も実感できるのではと思う。</p>	<p>田んぼ貯留や各戸貯留については確実性の部分で流域対策の効果に見込むことは難しいと考えており、超過洪水対策の位置付けで取り組んでいる。 ご指摘の、貯留量の把握はやり方も含めて考えていきたい。</p>
上甫木	<p>地域の人々の減災対策としての取り組みについて、関わる人とかその仕組みを多様にしていくことが非常に重要だと思う。こういう取り組みがどれぐらい浸透してきているかということも同時に把握しておく必要があると思う。これは後半戦に向けての課題と感じているので、そのあたりも検討願いたい。</p>	<p>流域市とも協力しながら、減災対策の理解と取り組みが広がっていくように努めてまいりたい。 実績把握は難しい部分もあるが、可能な範囲で行ないたい。</p>
宇田川	<p>もうすぐ災対法が少し変わる、警戒レベル5と言われる、川が氾濫している、あるいは氾濫しそうだという段階の情報について名称等が変わる。県と市で連携して河川の状況、洪水状況を適切に伝えて、市から警戒レベル5として市民の方にお伝え、市民はその情報をもとに適切な行動を取る。県と市とそして市民の方々の流域での連携も必要になってくる。今後、県と市の実践的な訓練であるとか、水防体制の強化の部分でそういった部分を反映いただければより安全な流域になると思う。</p>	<p>今後、河川管理者と防災部局との連携や、河川管理者と基礎自治体との連携が、これまで以上に求められてくると思われる。県としても法改正の動きも見極めながら、情報発信のあり方について検討し、流域市との情報共有を進めていきたい。</p>
光村	<p>大堀川の期別計画が第4期までとなっているが、第3期までで工事完了となるよう計画を再検討願いたい。 大堀川は30mm降雨の流量で洪水となり地域住民は家屋浸水を度々経験していることより大きな問題となっている。宝塚市と再協議を行なっていただき、少なくとも3期内で完了となるようお願いいたします。</p>	<p>大堀川は国道176号下のボックスの底板が高いため、バイパス河川的设计を行なっている。周辺関係者との調整等に時間が必要で、3期計画への前倒しは困難である。 課題の大きさは認識しているので、可能な限り早期完了に努めたい。</p>
酒井	<p>真南条川は土砂の流出を食い止める抜本的な工法をしないと、整形・浚渫だけでは、1回の出水で施工前と同様になる。 他方、隣接の玉津川、奥川（南矢代）など上流部は毎年の出水時は遊水地状態になる。県防災マップに色付けするだけの防災対策はいかがなものか。ご一考されたし。 阪神競馬場は遊水地に利用できないか。</p>	<p>河川内の土砂流出対策は丹波土木とともに検討する。 河川改修は一朝一夕には進まないため、その間の命を守る対策としてハザードマップ等で防災情報を提供し、早期避難を呼びかけている。 競馬場の遊水地利用については、船場川の姫路競馬場で事例がある。船場川に比べて武庫川は流量が多く、洪水流量の低減は不可能である。</p>
酒井	<p>山林の所有者が高齢化し、維持管理どころか所有地の継承すら不十分になっている。正に森林荒廃と下流域の治水は同時進行と里山で暮らす県民の一人として危機感を覚える。</p>	<p>高齢化社会が進む中、森林対策についても課題が生じると認識している。関係部局と連携して進めたい。</p>